

西ドイツにおけるマシーネンリングの実態と問題点

津 田 庄 一

はじめに

本稿は、1980年4月から1年間、「マシーネンリングの実態と問題点」を研究テーマに西ドイツ国内を農村調査した報告書である。

西ドイツに生まれたマシーネンリング (Maschinen und Betriebshilfsring = 農業機械・労働銀行) は第1号発足以来22年を経過し、1981年6月には5回目の国際会議を開くまでに発展普及した。わが国においても10年前から導入され、農協を事業主体として組織化が進められており、今日では全国各地に展開している。

構造的転換を迫られつつある農業の将来への展望をどう具体的に設定していくのか、あるいはまた、多様な展開を遂げつつある機能的農業生産組織と個別経営との関連をどう捉えるべきかなど、大きな課題が立ちはだかっている。農業の経済、技術の発展が経営の特化を強く要求する一方で、農家の兼業化の深化が問題をいっそう複雑にしているように考えられる。西ドイツにおいてもわが国においても、これら共通した問題を捉えてマシーネンリングが取りざたされてきた。

高度工業国における農業、農民の進むべき道として、資本の編成、労働の編成の有効な中軸として多くの国々から注目と関心を集めているマシーネンリングだが、発祥地西ドイツとわが国のそれを比べてみると、個人有機械の完全利用とか組織の運営原理とか、相違点がかなりみられることも事実である。

農村開発企画委員会の石光研二氏のご支援により現地マシーネンリングの大きな協力が得られ、その活動実態について十分な調査をすることができた。石光氏と研究テーマに関して指導をいただいた綿谷赳夫博士、そして西ドイツのマシーネンリングのマネージャーと会長、会員農家の協力に対して心からの感謝の意を記したい。

1. 西ドイツにおけるマシーネンリングの進展

(1) マシーネンリングの進展状況

西ドイツ連邦マシーネンリング連合会の調べによれば、1980年1月現在マシーネンリングの数は259である。72年以降リング数自体は一貫して減少傾向にあるが、リング組織(加入)率は過去3年間だけをみても経営数が96,659から117,729へと22%増加して全農業経営の17%に、加入者が経営する農用地もこの間に27%増えて全農用地の29%になった。表1に示すように、マシーネンリングはヘッセン州を除く7つの農業州において展開している。

表1 西ドイツのマシーネンリング

1979年12月31日現在

州 区 分	シュレスヴィッヒ ホルスタイン	ニーダー ザクセン	ノードライン ウェストファーレン	ラインランドファルツ ・ザールランド	バーデン ヴィルテンベルグ	バイエルン	連 邦 計
マシーネンリング数	13	65	37	20	34	90	259
うち専任マネージャーいる	6	41	12	12	1	89	161
会 員 数	3,326	16,362	17,810	9,481	8,114	64,484	119,572
うち農業経営者	3,124	15,524	17,560	9,157	8,007	64,357	117,729
全農業経営者に対する割合%	10.3	2.0	27.0	13.0	5.6	23.4	16.7
うち賃作業請負業	99	309	152	98	107	127	755
会員が経営する農用地	177,933	694,480	518,000	225,610	210,000	347,666	3,173,689
全農用地に対する割合%	16.2	25.0	43.0	27.0	13.7	38.4	29.0
会員農家1戸当たり面積	57	45	29	25	26	21	27
作 業 請 算 額	10,213	52,280	24,153	14,855	16,005	109,580	227,086
うち経営ヘルプ割合%	5.3	5.0	60.0	19.0	14.7	22.6	
うち賃作業請負業割合%	22.3	27.0	13.0	24.0	15.9	6.0	
1リング当たり平均会員数	255	251	481	474	238	716	461
1リング当たり平均清算額	784	804	652	742	470	1,217	876
1会員当たり平均清算額	3,070	3,195	1,356	1,566	1,972	1,699	1,899
1ha当たり平均清算額	57	75	46	65	76	81	71

資料：バイエルン州マシーネンリング管理委員会「MR-Intern」1/80 P.V-3

注) 単位はha、DM. 作業清算額は1,000 DM

西ドイツのマシーネンリングはもともとライフアイゼン協同組合系と貯蓄金庫系とに2分されるが、近年は新設よりもリングどうしの統合・合併による組織の広域化・大規模化が進行している。リングの大型化はすなわちリングの要であるマネージャーの専任化でもある。68年に始まった連邦政府のリングに対する助成は専任マネージャーを有するリングに限られていたし、現在の各州政府の助成もやはり専任マネージャー・リングに集中している。たとえば90のリングのうち89のリングがマネージャー専任制をとるバイエルン州の平均会員数と平均作物清算額は、34のリングのうち専任マネージャーをおくリングは1つだけのバーデン・ヴィルテンベルク州のそれより3倍大きい。

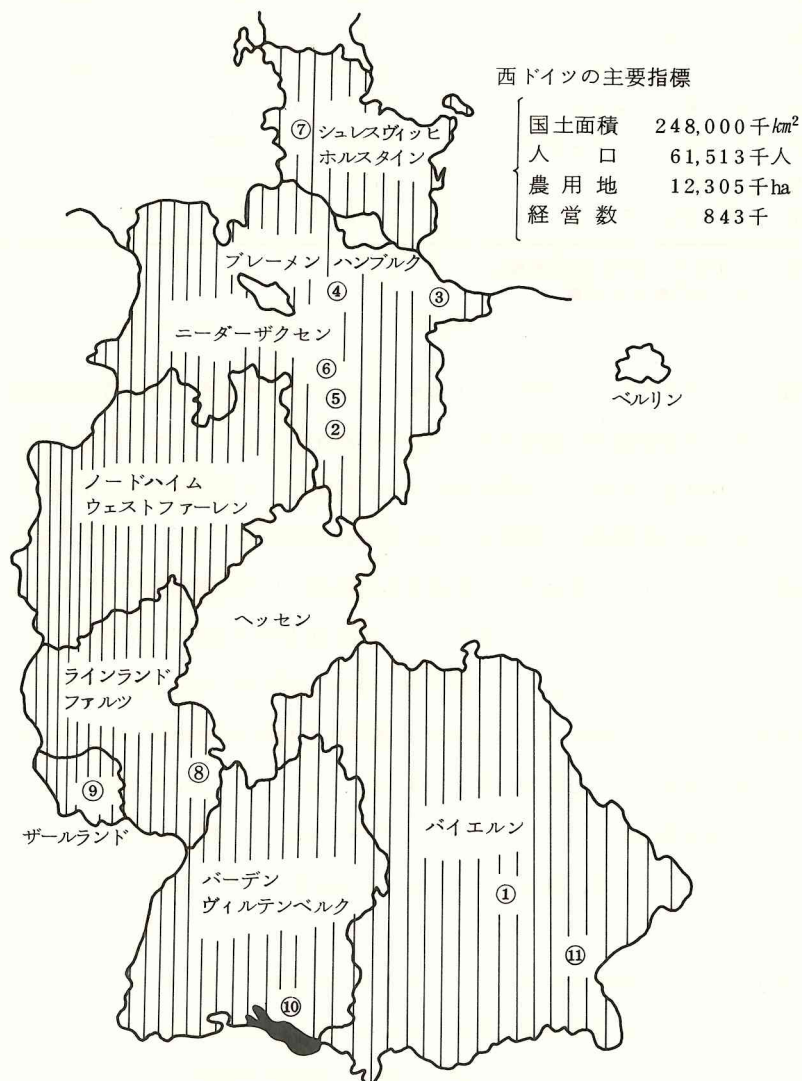
州別にマシーネンリングの進展状況を検討すれば、リング発祥の地バイエルン州とノーデルハイน์・ウェストファーレン州はおよそ農業経営の4分の1、農用地の4割をリングが組織している。会員農家の平均経営農用地面積が大きいシュレスヴィッヒ・ホルスタイン州とニーダーザクセン州の北部2州では会員1人当たり作業清算額が大きく、反対に中小規模経営農家が多く加入するバイエルン州とバーデン・ヴィルテンベルク州の南部2州では農用地1ha当たり作業清算額が優っている。またノーデルハイน์・ウェストファーレン州とバイエルン州は経営ヘルプ(Betriebshilfsdienst)の清算額割合が高く、ニーダーザクセン州とシュレスヴィッヒ・ホルスタイン州では賃作業請負業者(Lohnunternehmer)による清算額割合が高いなどの特色がみられる。

このようにマシーネンリングの進展と現状は、各州区域における経営規模や農地構成、政策的奨励の差などによりちがいがあある。一定区域に限定される農業の生産組織であるため、地域的特性を大きく反映したものになっている。

(2) 現地調査マシーネンリングの概要

私はバイエルン州、ニーダーザクセン州の両州を中心に5つの州に11のリングを訪ねた。ほかにバイエルン州マシーネンリング管理委員会事務局やニーダーザクセン州農業会議所ハノーバー事務所などの州連合会段階の調査をすることができた。現地調査は、長く滞在したところで約3カ月間、短い滞在地には3日間とかなりの開きがあり、また1つ1つのリングが各々に特色を持っていて、調査結果の内容にはおのずと濃淡がある。

図1 現地調査マシーネンリングの位置



注) ○数字は調査した順序をあらわす。

||| はマシーネンリング指導助成州をあらわす。

表2は、調査した11カ所のマシーネンリングをあらわす。以下それらの概要を述べておこう。

表2 現地調査マシーネンリングの概要

リング名称	設立年次	会員数	農用地 ha	清算額 DM
① マインブルク	1960	615	11,875	1,451,188
② ハーメルン	1969	628	—	1,563,578
③ ダーレンブルク	1965	360	16,960	1,146,360
④ ローテンブルク	1970	438	20,246	1,253,176
⑤ ハノーハー	1970	227	12,464	309,636
⑥ ノイスタット	1971	231	9,812	1,185,000
⑦ ベッセルブーレン	1963	260	14,564	2,285,337
⑧ ファーダーファルツ	1971	558	10,751	1,600,527
⑨ ズートウェストファルツ	1970	387	9,705	810,785
⑩ テッテナング	1976	625	—	714,791
⑪ アルトッティング・ミュールドルフ	1970	1,426	34,052	2,704,263

注) いずれも1979年の実績。

図1の○数字に同様

まず①マインブルク・リングは、バイエルン州のほぼ中央にあって、管内農用地の4分の1がホップ畑というホップの特産地に立地する。リングが所在するキールハイム郡の北半分にはもう一つの同規模のリングが機能しており、各種作業において濃密なリング間協同行なわれている。615名の会員数、11,875 haの農用地は、組織率でみればそれぞれ39%、59%となる。集約作物ホップを耕作する農家が多いことから、補助労力の交換である経営ヘルプが清算額の過半を占める。

⑪アルトッティング・ミュールドルフ・リングは80年8月に設立10周年を祝った。組織名称の通り、アルトッティングとミュールドルフの2つの郡を管内にする広域リングである。会員数は1,426名、管内農家の21%を組織する。会員農家の農用地面積は管内農用地の42%に達し、34,052 haである。当地域は農地に占める草地の割合(草地率47%)が多く、酪農や肥育牛経営を営む専業農家が多いから、作業清算額270万マルクのうち、37%は飼料作・藁収穫の売上げである。会員数1,000人を超す大型リングのため、専任マネージャーに補助者、そして秘書の3人でリング管理に当たっている。

調査地②から⑥まではいずれもニーダーザクセン州である。②ハーメルンと⑤ハノーハーと⑥ノイスタットのリングはそれぞれ境界が隣接しており、設立年次も接近している。しかし⑤ハノーハー・リングと⑥ノイスタット・リングを比較した場合、会員数規模は同じであるものの作業清算額では前者が後者の3分の1に過ぎない。西ドイツ北部でマシーネンリングと激しく競合する賃作業請負業者

を会員に組み込んだリングと、反対に彼らの加入を拒むリングとの差である。つまり⑤ハノーバー・リングがかたくなに農民だけの組織を志向するのに対し、⑥ノイスタット・リングは機械作業サービスを売だけの賃作業請負専門業者を積極的に組織に取り込み、作業清算額を伸ばしている。リングの発展にとって賃作業請負業者の存在が大きく影響している。

また優良リングとして知られる②ハーメルン・リングは、80年10月に国内のリングとして最初の机上型コンピューターをリング事務所に導入した。これにより作業料金の決済など管理事務が能率化したばかりでなく、豊富なデータをもとに高度なマネジメントが可能となった。

④ローテンブルク・リングの管内も賃作業請負業者の台頭が著しい地区である。リングは10名の賃作業請負業者を全員加入させており、作業清算額の5割以上を彼らに依存している。リング発足当時よりこの傾向は変わらず、この結果会員農家の56%は機械作業を買う委託だけに回っている。

③ダーレンブルク・リングは、エルベ河を挟んで東ドイツと国境を接する、リュネブルガー原野の東端にある。脱農と労力不足が著しく、そのためリングが仲介する労働力の賃金は時間当たり12マルクと調査11カ所のなかでいちばん高い。会員数が360名、リングはコンバイン202台、ジャガイモ掘取機106台、ビートル収穫機62台、トウモロコシ収穫機26台等を登録している。

ハンブルクのずっと北、北海に面したところにあるのは⑦ヴェッセルブーレン・リングである。管内は干拓によって湿地帯を農地化した低地が多く、いたるところに堤防が目につく。このヴェッセルブーレン・リングの特色の一つは、58年設立の機械共同利用組合が63年に発足したマシーネンリングのもとで有効に機能していることである。260名の会員のうち189名は同時に利用組合の組合員であり、220万マルクの作業清算額の60%は組合所有の18台の機械の売上げである。マネージャーは組合の管理も兼務し、組合が雇用する5人の職員が年間とおしてフルに働けるように機械作業を仲介あっせんしている。リングの下部組織として再編された機械共同利用組合が、重層的機能分担を十分に果たしている事例である。1会員当たり清算額は8,789マルクに達する。

⑧ファーダーファルツ・リングはぶどう産地に立地し、主にぶどう作りおよびワイン醸造の補助労力や畑作の大型機械作業を仲介する。ぶどう栽培の農繁期には隣接リングからの応援をはじめ、オーストリアやスイスなどの隣国マシーネングと共同して余剰若年労働力を経営ヘルパーとして受け入れている。126名の経営ヘルパーを39,910時間労働させ35万マルクを仲介した。また加入する12名の賃作業請負業者がワイン移送や穀物収穫、ビート収穫等で74万マルク、清算額の46%を売上げている。

⑨ズートウェストファルツ・リングは、同じラインランド・ファルツ州でもフランスとの国境に間近かい山間地にある。リングの特色は、リング会員であるライフアイゼン協同組合所有の大型肥料散布機で広域に集団的に肥料散布を行なっていることである。また経営ヘルプの仲介あっせんも盛んで

ある。

西ドイツ最大の湖ボーデン湖岸に76年に創設されたのは⑩テッテナング・リングである。いくつかの機械共同利用組合を統合して416名の会員でスタートした。バーデンヴィルテンベルク州には小型リング制をとるリングが多いが、テッテナング・リングも管内区域の小さい、調査リングのなかで唯一兼任のマネージャーをおくリングであった。管内区域には普通畑作のほかにはホップ、ぶどう、タバコ、リンゴ、野菜、ビートなどが栽培されている。農地構成や栽培作物が多岐にわたるため、リングが仲介する作業も年々種類を増している。マネージャーと会員農家で共同開発したいちご畦マルチを48経営(105 km)に、野菜畑用藁敷機を71経営に仲介した。作業研究や共同作業など、機械共同利用組合の特色をいまなお色濃く残している。

2. マシーネンリングとパートナーシャフト — マインプルク・リングの事例

(1) リングの発展 — 20年の歩み

最初の調査地として訪ねたのはマインプルク・リングである。マインプルク町はバイエルン州のほぼ中央、州都ミュンヘンから北北東約60 kmに位置する。州中央部を横断してオーストリアにそそぐ大河ドナウ河に平行して走るアウトバーンを北の境界に南へ23 km、東西20 kmがリング管内である。この管内には現在1,560の農業経営、20,270 haの農用地があり、したがって平均規模は13 haである。農用地の4分の1はホップ畑であり、国内屈指のホップ産地として名が知られる。

当地域にマシーネンリングが発足したのは1960年のことである。その後の20年間の歩みは大概か4期に区分できる。

第1期 — 30戸の農家が集合してリングを設立し、貯蓄銀行の援助のもと自営農業兼営のマネージャーを任命しておおかなびくりに始めた最初の4年間をさす。この時期は州のあちらこちらにリングが設立した時であり、いろはリング建設期であった。

第2期 — 64年から69年まで。64年に管内を電話局区毎に5区分し、それぞれの地区に兼任マネージャーを配置してリングの普及にあたった。会員数は順増したものの作業売上額は停滞していた時期である。

第3期 — 70年4月1日付けで専任マネージャーを有する新制マシーネンリングとして再スタートした。この組織替えは、直接に69年にバイエルン州政府が制定した「農業振興法」とこの法令に基づいて発足したバイエルン州マシーネンリング管理委員会の指導による。

第4期 — 73年から現在まで。この年を節目とみる理由はいくつかある。マネージャー私宅新築落成にともないリング事務所が町農業事務所の一室から彼の自宅に移り、昼夜を問わずマネージャー業をできるようになったこと、管理委員会の指導によりコンピューターによる作業料金決済方式を導

入し、料金清算業務が簡便化・迅速化したこと、そして経営援助サービスを本格的に開始したこと、さらにリング運営に大きな影響力を持つリング会長が3代目に改選され、マネージャーと息の合った新しいコンビが誕生したこと、これらが73年にあった。

マシーネンリング発足後20年目に当たる1979年のリング実績は、会員農家数が603、その経営する農用地が11,875 haである。これは管内総農家の39%、全農用地の59%に相当する。また作業清算額は145,118 マルクであり、会員農家1戸当たり2,407 マルク、農用地1 ha当たり122 マルクの作業仲介となる。

さて、マインブルク・リングがどういう作業を仲介したかをみたのが表3である。作業群毎に作業売上額割合を示したが、79年には売上総額の過半を補助労力が占め、穀物収穫がこれにつぎ、根菜収穫がいちばん少ない。過去7年間の伸び率でみると山林機械が55倍と最も高く、補助労力が6倍、耕地機械が3倍、穀物収穫と飼料・葉収穫が2.7倍に伸びている。反対に特用作機械と農場機械はそれぞれ40%、20%づつ減少している。

管内の農業は経営組織別にみて畜産とホップ作の複合経営が中心であり、集約作物ホップ栽培の農繁期には農家は保有労力を超えて労力が必要となる。かつては家族労働力をフルに回転させることにより、あるいは機械の共同利用組織をとおして農繁期を乗り切ってきたが、今日ではそうした労力確

表3 作業群別作業売上額割合の推移

(単位: %, 千DM)

作業群 \ 年次	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1979 1973
作業売上額	401	404	605	714	1,031	1,340	1,451	3.6
(割合)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	—
経営援助	33.7	43.4	45.5	55.3	64.7	60.7	58.0	6.1
トラクター	12.7	11.2	16.7	6.9	6.9	7.2	7.1	2.0
耕地機械	0.8	0.9	1.1	0.6	0.8	0.9	0.7	3.1
施肥・播種等	2.5	2.3	1.8	1.7	1.6	1.4	1.1	1.6
飼料・葉収穫	4.6	6.2	5.0	8.7	3.2	4.8	3.5	2.7
穀物収穫	35.3	31.4	24.6	23.5	21.2	23.7	27.2	2.7
根菜類収穫	—	—	—	—	—	—	—	—
農場機械	0.4	0.1	0.2	0.2	0.5	0.1	0.1	0.8
山林機械	0.1	0.1	0.2	—	—	0.1	0.5	55
農用作機械	9.8	4.3	4.8	2.9	1.7	0.9	1.7	0.6

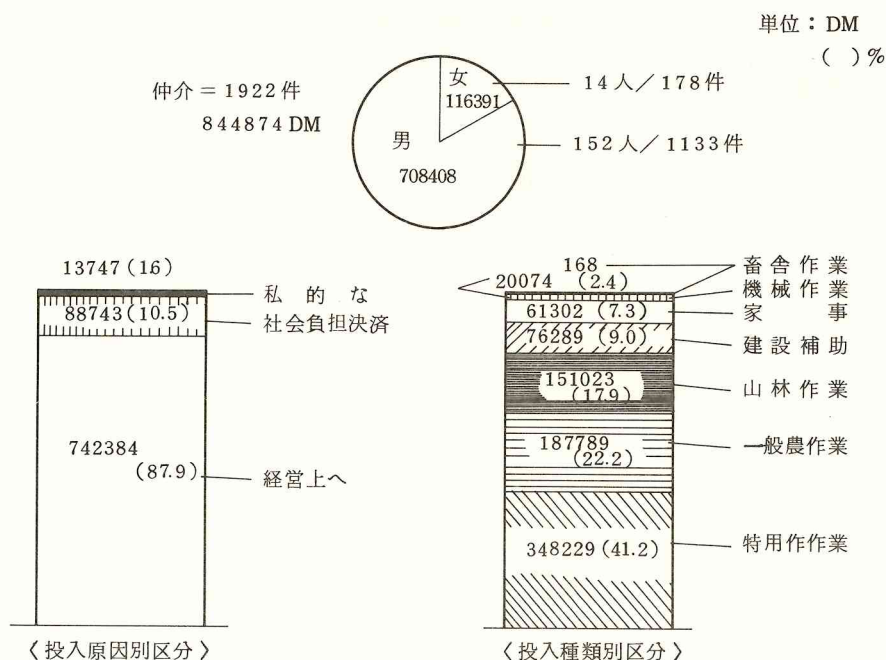
資料: 「マインブルク・マシーネンリング年次報告書」各年次より作成

保は困難である。機械設備と同じく、保有労力に余力のある農家が労力の不足する農家に補助労力として出動する労力交換が重要となっている。

後述するように、調査農家の大半が機械作業の受委託だけでなく労働力＝裸の労働の交換を行っており、マシーネンリングが高度機械化段階における労力不足を背景に機能していることがわかる。

ところで、バイエルン州のマシーネンリングは管理委員会設立にともない組織名称を「機械および経営援助リング」と変更した。73年以降は一連の農業保険の認定業務をリングマネージャーが代行することになり、保険入者の不労働期間についてリングより経営ヘルパーを派遣している。図2をみてほしい。79年に仲介した経営援助すなわち補助労力1,922件、844,872マルクを投入性格別に区分したものである。経営援助はまず投入された原因別に農繁期等に投入される経営的投入、農業保険加入者の病気やケガ、事故等の際に投入される社会負担決済投入、そして休暇等のための代理として投入される私的投入に分れる。経営的投入が88%の圧倒的比重を占める。一方投入された種類別には7種類に区分される。農用地面積の4分の1に栽培されているホップ栽培作業に41%、一般農作業に22%、一戸当たり平均5ha経営される山林作業に18%が投入され、畜舎作業がいちばん少ない。

機械操作を除く経営援助＝裸の労働の清算額824,800マルクは、普段は自宅で農作業に従事しながらマネージャーの仲介により補助労力として他の経営に出動する兼業ヘルパーによって売上げられている。経営ヘルパーは男性152名、女性14名であり、1人当たり平均で494時間の出動、4,968マルクの追加収入になる。保有労力が1ないし1を割る状態となり、あるいは経営主年令の高令化が進行する農業構造において、マシーネンリングがあっせんする補助労力がますます重要となっている。



資料：「マインブルク・マシーネンリング 1979 年度年次報告書」より作成。

図2 経営援助投入性格別区分

このようなマシーネンリングと経営援助の方向は、実はバイエルン農業振興法のなかで州の重要施策の1つとして確たる位置づけがなされている。マシーネンリングがあっせんする経営援助の制度は家族経営の危機あるいは農業者の過重労働からの解放を目的としているが、リング自体が農民各層に広汎に認識されることにも役立っている。マインブルク・リングでは経営援助が清算額の58%を占めるが、州全体のリング実績をみても経営援助は作業清算額の30%を超している。社会保障との関連で注目すべき方向である。